

第42回 ISO総会 結果報告

経済産業省

産業技術環境局 国際標準課

令和元年10月29日

<1. 日時・場所>

- 日時：2019年9月19-20日
- 場所：南アフリカ・ケープタウン
- 日本からは遠藤JISC会長をヘッドとする代表団が出席。
- また、総会の場を活用し、7か国（アメリカ、カナダ、イギリス、シンガポール、オーストラリア、ドイツ、インド）とのバイ会談を実施。

<2. ISO役員メンバー>

会長	: Mr. John Walter (カナダ) 【2018-2019】
次期会長	: Mr. Edward Njoroge (ケニア) ※任期は2020-2021年の予定
副会長 (政策)	: Dr. Scott Steedman (イギリス) 【2018-2019】
副会長 (技術管理)	: Ms. Choy Sauw Kook (シンガポール) 【2019-2020】
副会長 (財政)	: Mr. Mitsuo Matsumoto (日本) 【2019-2020】
事務総長	: Mr. Sergio Mujica (チリ) 【2017-2022】
財務監事	: Mr. Dominique Christin (スイス) 【2019-2021】

ISO総会 議題一覧（1日目）

○ 9月19日（木）

＜午前＞

1. 開会セレモニー、ISO 会長及び
開催国（南アフリカ）政府高官からの挨拶
2. アジェンダの説明及び承認
3. 2018 年総会議事録の確認
4. 事務総長による活動報告
5. 副会長（政策）からの報告
6. セッション：テーマ「経済・貿易の不確実性」
7. 副会長（財政）からの報告
8. 2018 年（12 月 31 日までの 1 年間）
会計監査報告書の承認
9. 2020 年会員費の承認（ユニット単価）
10. 2020 会計年度の会計監査法人の任命

＜午後＞

- 11.セッション：テーマ「環境」
a)ゲストスピーカーによる講演：
「持続可能性の緊急性」
b)パネル：気候変動、適応、乖離と
戦略を支える標準
- 12.セッション：テーマ「技術」
ーデジタルのインパクト
- 13.IEC、ITU との協力
- 14.副会長（技術管理）からの報告
- 15.ローレンス・アイカー賞の
プレゼンテーション

○ 9月20日（金）

<午前>

16.戦略に関するキーノートスピーチ

17.ブレイクアウトセッションに関する
イントロダクション

18.ISO 次期戦略に関する
ブレイクアウトセッション

<午後>

19.セッション：テーマ「社会」
ー変化する期待と振る舞い
(シェアリングエコノミー等のテーマについて)

20.ISO 副会長(政策)(2020-2021)の任命

21.ISO 理事会メンバー(2020-2022)選挙

22.その他の議題、次回会合
(2020 年 9 月@アラブ首長国連邦・アブダビ)

23.閉会

a)ISO 会長選出に関する説明

b)ISO 会長から閉会挨拶

【議題4】事務総長による報告①

【関連決議】総会決議 2/2019（事務総長からの報告）

総会は、来年の重要優先事項及び2018年総会以降の達成事項を強調した事務総長及び副事務総長のプレゼンに感謝し、総会文書 04/2019の附属書1に示されている事務総長からの報告を承認し、2019年1月3日発行の“世界規模で計画を進めよう”という表題がつけられた2018 年次報告書に留意する。

<主な報告内容>

◆不確実性、緊急性及び進展：ISO 規格による UN SDG s への貢献

◆ISO 会員との交流： 戦略的議論・意思決定への ISO 会員の参画促進、新権利パイロットプログラム（通信・購買会員の正会員への昇格方法を提供）の恒久化、ISO 事務局長による各国訪問や地域組織体の会議（PASC、COPANT、CEN、ARSO）への参加

◆強力な組織のための強力な会員：「持続可能な能力開発」を重点分野の一つとして位置づけ、発展途上国の ISO 専門業務への参加促進、発展途上国対策委員会(DEVCO)と技術管理評議会(TMB)との共同セッションの開催、国連女性機関による基調講演の開催

◆利害関係者との関係構築：消費者政策委員会(COPOLCO)会議開催（ジンバブエ）、適合性評価委員会（CASCO）会議開催（ケニア）

【議題4】事務総長による報告②

- ◆ パートナーとの連携強化：世界標準協力（WSC）会議開催(スイス)、ISO・IEC・ITU 間、国連関係機関や OECD 等の国際機関との連携強化
- ◆ ISO 規格の市場関連性及び影響力の向上：1637 件もの ISO 出版物を発行、適切なプロジェクト管理による ISO 発行物の質・時間の改善
- ◆ 国際規格の普及増強：売上げの過去最高を記録（前年比 13%増）
- ◆ 調査・イノベーション課 – ISO 規格の価値の証明：会員のニーズや関心・優先事項の見極め、文献の精査、各国標準化機関(NSB)、学術界、その他の関連団体とのネットワークの構築及び調査を実施
- ◆ 中央事務局(ISO/CS)のパフォーマンス強化：従業員能力開発の強化
- ◆ 強固な財政：規格売上げ増加と ISO/CS の財産資源の厳格な管理に基づく健全で強固な ISO 財政（2018 年純営業剰余金は kCHF5938）
- ◆ ISO の位置付けの改善–重要なテーマへの参画：労働安全衛生、気候変動対策やプラスチック汚染等の環境政策関連、Industry 4.0 等

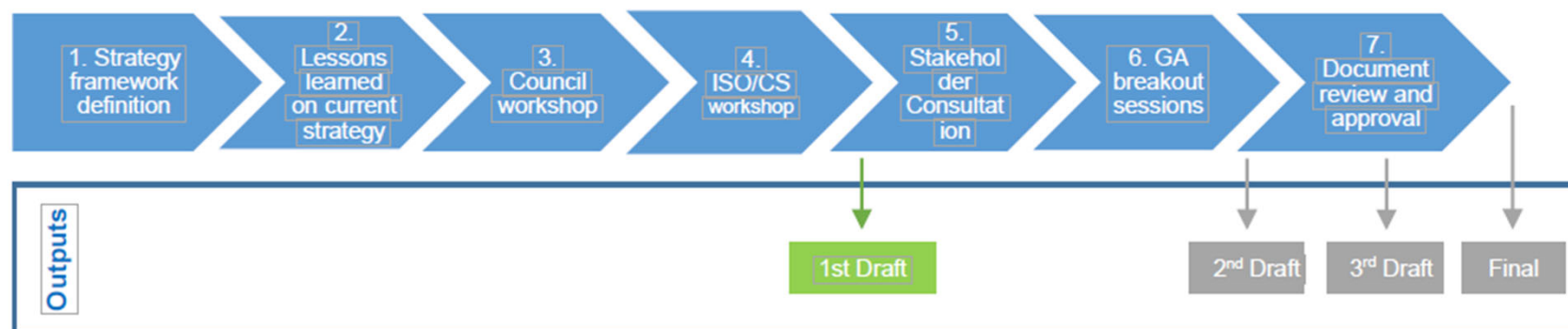
<主な報告内容>

◆CSC/SP の戦略的事項

- ・ISO 戦略 2016-2020 の実施、進捗管理、評価
- ・ISO 戦略 2021-2030 の開発プロセス（下記図参照）
- ・地域における関係者巻き込みガイドラインの活用

◆CSC/SP の政策的事項

- ・ISO/CS 財政モデル見直しへの政策的観点
- ・ISO リスク管理ポリシーの策定
- ・ISO システムの基本的原則の見直し



開発プロセス図（総会審議文書より引用）

<主な報告内容>

◆ 前回の総会以降 CSC/FIN が重点を置く主要領域

- ・2018 年会計の締め：2018 年の純営業剰余金は kCHF5938、一般資金を積み増して k CHF18896（事業費の 6 か月分）に。
kCHF750 を発展途上国行動計画 2016－2020 に割り当て
- ・ISO/CS 財政モデルの見直し：会員が ISO/CS に支払う著作権料の上限を支払う会費の 150%に設定

◆ 2019 年 CSC/FIN の行動要点

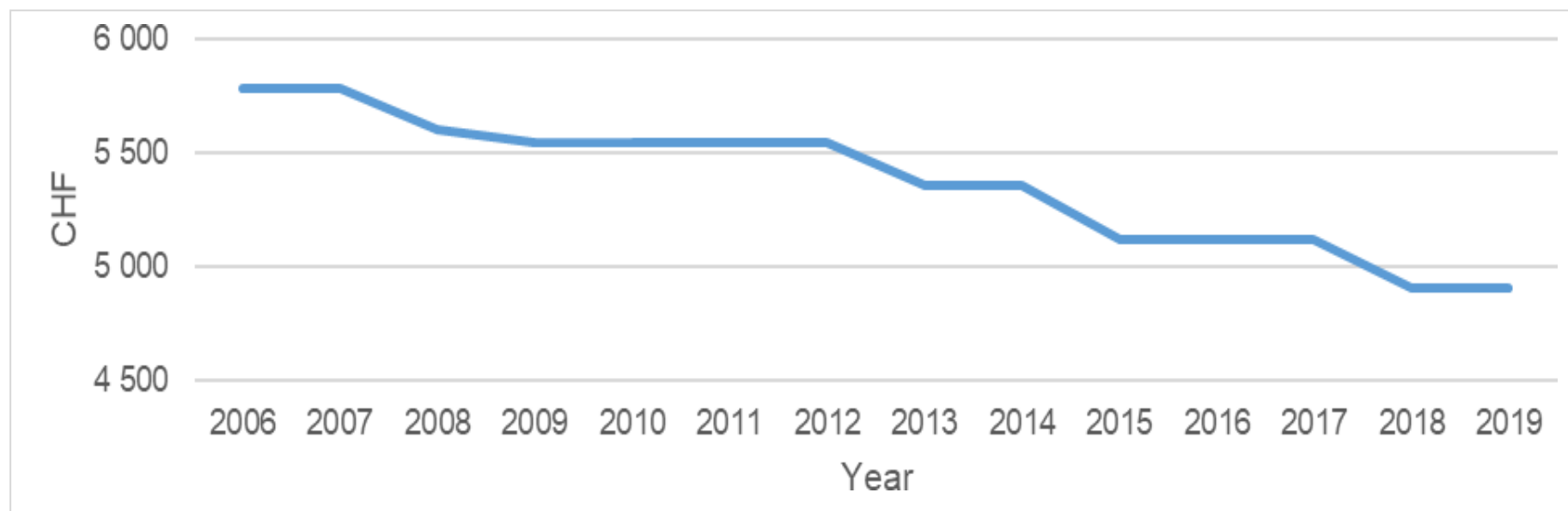
- ・2020 年 ISO/CS 予算の精査
- ・ISO 能力開発の資金調達：能力開発の資金調達のために重要なドナーとの関係を強化するためにアドホック諮問グループを設置しつつ、2020年は例外的に剰余金から kCHF 750 を割り当てることに。

【議題9】2020 年 ISO 会費（ユニット単価）の承認

【関連決議】総会決議 6/2019（ISO会費－2020ユニット単価）

総会は、2018年～2020年にかけて各会員団体に割り当てられるユニット数は総会決議 9/2017で決定済みであることを想起し、2020年の分担金ユニット単価CHF 4 904を承認する。

＜2006年～2019年 各年分担金ユニット単価の変遷＞



Year	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
CHF	5 776	5 776	5 602	5 546	5 546	5 546	5 546	5 355	5 355	5 118	5 118	5 118	4 904	4 904

<主な報告内容>

◆規格開発環境の改善

- ・プロジェクトマネジメント（委員会幹事の役割強化）
- ・アクセシビリティ（規格開発の促進）
- ・技術委員会における倫理向上

◆規格開発とイノベーション

- ・ISO 規格のバーチャル開発
- ・機械可読規格の開発

◆IEC と ITU との連携

- ・ISO/TMB と IEC/SMB の合同会議開催
- ・ISO/IEC/ITU 規格プログラム調整グループの設置
- ・機械可読規格の開発

【関連決議】

【関連決議】 総会決議 9/2019 (技術に関するセッション)

総会は、ナイロビ大学のBitange Ndemo教授のデジタル移行及びこれがビジネス、経済発展及び社会に与える影響に関するプレゼンテーションに感謝し、自身の国家規格団体の認識を共有してくれた進行役及びパネリストに更に感謝し、デジタル技術が与える影響はISO戦略 2021-2030の作成において考慮すべき変化の重要原動力の一つであることに留意する。

【関連決議】 総会決議 10/2019 (IECとITUとの協力)

総会は、IEC会長のMr James Shannon及びITU-T局長のMr Chaesub LeeのISO 総会での演説に感謝し、ISO、IEC及びITU間の協力及び協働は重要であり、各組織のメンバーだけでなく、その利害関係者及び規格使用者にも便益を与えることを強調する。

【関連決議】 総会決議 11/2019 (IECとの協力)

総会は、会議でISO及びIEC会長から寄せられた肯定的な発言を歓迎し、ISO及びIEC会長及び事務総長が行うISO及びIECの二者間協力を増やすためのイニシアティブで更なる大きな進展があったことを認識し、現在のISO会長であるMr John Walterがこの件に関して次の会長を支援するために理事会によって特別顧問に任命されていることに留意し、これらのイニシアティブを継続するよう次のISO会長であるMr Eddy Njorogeに奨励する。

◆テーマ：“Evolving the ISO Strategy”

＜Breakout sessionについて＞

- 総会の正式なセッションではなく、セッションの内容にはどのメンバーも拘束されない。

＜ISO次期戦略とは＞

- 160 を超える各国標準化機関の参加によって構成される ISO が定める国際標準化活動に係る戦略方針。今次戦略は 2021-2030 年のもので中間見直しを行う予定。

＜Breakout sessionの概要＞

ISO 戦略 2030 は、変動を続ける世界に柔軟に対応すべく、時には変化を起こすために、以下の 4つの柱を中心に記載。

- ISO の活動理由(Vision)：なぜ、何を行うのか
- ISO の活動趣旨・方法(Mission)：何を、どのように行うのか
- ISO が目指すべき目標(Goals)：Vision と Mission を実現するために何を達成すべきか
- ISO の活動における優先事項：どこに集中して資源を投入すべきか

総会決議 15/2019 (2020年～2022年任期の理事会メンバー)

総会は、下記の4メンバーを、2020年1月1日に始まり、2022年12月31日に終了する2020年～2022年任期でISO理事会に選出する。

◆経緯

- ✓ 2020年から2022年までの理事会委員を Group 2 より 2 か国、Group 3 より 1 か国、Group 4 より 1 か国、今次総会時の選挙で選出。

◆結果（総会決議15/2019）

○Group2について：

- ・ KATS（韓国）、SCC(カナダ)が選出。

○Group 3 について：

- ・ ESMA(アラブ首長国連邦)が選出。

○Group 4 について：

- ・ INACAL（ペルー）が選出。

＜バイ会談開催国＞

◆二国間：米国(ANSI)、カナダ(SCC)、インド(BIS)・イギリス(BSI)、シンガポール(ESG)、豪州(SA)、ドイツ(DIN)

①JISC-ANSI

■主な会合トピック：

JISC会長就任挨拶、ISO次期戦略を見据えた今後の方向性と課題、ISO地域事務所、ISO/IEC協働
個別分野協力（Sharing Economy、自動走行、環境ファイナンス等）

②JISC-SCC

■主な会合トピック：

JISC会長就任挨拶、ISO次期戦略を見据えた今後の方向性と課題、ISO地域事務所、PASC、ISO/IEC協働、
個別協力分野（Sharing Economy、サービスロボット、ファインバブル等）

③JISC-BIS

■主な会合トピック：

日印間での電気自動車に係る標準化ワークショップ
日印間MoU活用検討

＜バイ会談開催国＞

◆二国間：米国(ANSI)、カナダ(SCC)、インド(BIS)・イギリス(BSI)、シンガポール(ESG)、豪州(SA)、ドイツ(DIN)

④ JISC-ESG

■主な会合トピック：

JISC会長就任挨拶、ISO次期戦略を見据えた今後の方向性と課題、ISO地域事務所、Industry4.0ワークショップ
個別分野協力（グリーン建材、サービスロボット、電動車等）

⑤ JISC-SA

■主な会合トピック：

地域標準化活動、ISO地域事務所
個別分野協力（Sharing Economy、グリーン建材、ファインバブル等）

⑥ JISC-DIN

■主な会合トピック：

JISC会長就任挨拶、DIN/DKE-JISCとの連携の在り方、個別分野協力（自動運転、サービスロボット等）

(参考) ISO総会風景



(参考) ISO総会風景



御清聴ありがとうございました

経済産業省 ～「標準化・認証」の紹介ページ

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/kijyun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<http://www.jisc.go.jp/>